

▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします。 ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします。

みことば

ひと粒の雨の音に心をとどめてみよう。

そうすれば、人類の歴史に及ぼす自分の人生の意味がわかるだろう。

アントニー・デ・メロ著「心の歌」より

きらりん☆



30年を迎えて思うこと

生活福祉課 課長 高橋 文子

恵の聖母の家に勤務し、30年を迎える事ができました。そこで、開設当初を振り返ってみたいと思います。利用者の受け入れ準備期間があり、その期間中は保育士として環境製作を行いました。まずは、季節感を出すために秋をイメージしブドウ棚を天井から下げ、少しでも生活感を感じてもらえるよう壁画も制作しました。

昭和58年10月25日みさかえの園より、第一先発隊として大分県出身の利用者が入所しました。その後は次々と他施設やご家庭から入所がありました。職員のほとんどが施設勤務経験のない中、毎日の生活支援に追われる日々が続きました。療育・教育・躰、特に学齢児が多く、養護学校関係との連携、また社会一般の行事を取り入れた活動等施設をあげて行いました。今思えば「よく日々の生活支援を行いながら、あのような事ができたな」と思いますが、それは利用者の方々の不安や期待を背負い、職員が職種を問わず一丸となって支援にあたる事ができていたからだと思います。

30年という時(間)の経過の中で思う事は、もっと障害者の方々が社会の一員として生活できる環境が整う事です。それが本当の意味の「平等権」だと思います。

今後も、利用者個々のニーズに添った意思決定に近い支援や、一人ひとりの自己実現に向け継続できる支援をさせていただきたいと思っています。

表紙写真は開設から現在までの様子です。アルバムの中から選んでみました。

巻頭言

施設長 佐藤 圭右

私事ですが、先日、自分の祖母が九十八歳で亡くなりました。

「急変しました。すぐ来てください。」と自分が祖母のいる施設から連絡を受けたのは、鹿児島で開かれていた公益社団法人日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会の時でした。しかし、すぐに帰ることはできず、そのうちに家族から、亡くなつたと連絡を受けました。無理を言つて、会議での自分が行う報告を二日目から初日に繰り上げてもらい、その日の午後には鹿児島を発つて、大分には仮通夜のお経が終わつたところに着きました。葬儀は家族葬でさせていただき、落ち着いた雰囲気です送ることができました。

死因は急性肺炎。これまでも食事をうまく飲み込めず、間違つて呼吸をする肺に入つてしまい、そうして生じる嚥下性肺炎をたびたび繰り返していました。

施設に入つていたこともあり、父はしばしば見舞つていたようですが、自分はあまり行くことはありませんでした。施設に入所してしばらくすると認知症の症状も見られるようになり、最近では父の顔すらわからなくなつたようです。それでも、職員さんとは話ができていたようで、自分が見舞つたときも、自分のことはもちろんわかりませんが、職員さんにはいろいろとお話をしていました。そのような祖母ですが、自分が最後に祖母を見舞つたのは、三月でした。その時も肺炎で調子が悪くなつたと連絡を受けたのですが、行ってみると、

すっかりと食事を摂っている最中でした。エプロンを食器の下まで敷き込み、スプーンを使って自分で食べようとする姿は、いつも恵の聖母の家で見える光景と同じでした。そばで見ている自分とはわからなくても、茶碗のごはんを一粒残らず食べようとしていました。

その際、傍らのスタッフに、経管栄養をこの施設ではどう考えているのかをお伺いしました。明確なことはわかりませんが、医師とスタッフで話し合いながら、ご家族と相談することでした。

医師の立場で、自分は恵の聖母の家に通院、入所している皆さん、またはご家族に、経管栄養を勧めることはよくあります。その際、「今は確かに口から食べているかもしれませんが、少しずつ食べる機能は落ちてきており、肺炎を繰り返すようになりそうです。」または「肺炎を繰り返す恐れがあります。」とご説明していると思います。自分の祖母はちょうどその状態でした。

では、家族の立場としての自分はどうか。祖母は九十八歳になつても一生懸命食べていました。周りのことをよくわからなくなつても、食べることも楽しみの一つとして。その祖母から食べる楽しみを奪うことはできませんでした。だからこそ、今回のように急変することも十分考えていました。そして、今思つことは、経管栄養にせず、精一杯食べることを楽しんで、満足して逝けたのではないかと勝手に思っています。祖母の気持ちを聞くことはできなかつたので…。

もちろん、自分が経管栄養を勧める皆さんは、まだまだ若くて、今の段階で食べることができない、または肺炎を繰り返して、その結果亡くなるようなことになるには、まだ若すぎるのではないかという自分の思いがあります。

しかし、それぞれの人生です。自分は医師としての見通しを助言しますが、本人やご家族のお気持ちも十分尊重したいと思います。食べることができないくらいなら、生きている意味がないと考える方もいらっしゃるでしょうし、口から食べなくてもその分の時間を趣味に充てたいと考える方もいらっしゃるでしょう。

入所者の皆さんには、個別面談などを通じてお話を伺う機会がありますが、今一度、そのようなことも考えてみられてはいかがでしょうか。自分も両親に改めて聞いてみたいと思ひますし、そういう機会を与えてくれた祖母に感謝したいと思います。





▼各部署の声です。今年目標は「一体感」です。

新年度の一步

たらちね

総看護師長 牧山 美鶴江

恵の聖母の家は、創設三十年を迎えあらためてこれまで歩みを振り返り、創設者の意向と先輩方が培って下さった礎は、時代の移ろいに合った恵の聖母の家の家風として正しい方向に向かって受け継がれているのでしょうか。

ルルドの丘から、当施設が一望できる位置に立つて考えてみました。恵の語源の持つ意味がへブル語で「受け入れる」である。名称に恥じないよう、利用されている方々、そのご家族、後見人さん、社会の要望に応え受け入れているか？ 二〇一四年度の全体目標が「一体感」で歩み出している今、何が求められ、何を受け入れて行くべきか？

全国で約三万八千人と言われている重症心身障害児の内二万五千人が在宅者ときいています。入所施設の役割を果たしながら、ほぼ倍に当たる在宅者に、外来、通所、訪問診療、地域支援等を通じて長期、短期入所に繋げて行く事ではないかと確信しています。

具体的には、今年度から二人のナースを（本体は、非常に厳しい状況の中から）専属で外来に出しました。常々施設長が恵の聖母の家は、『家』にしたいと話されている事への実現第一歩と考えています。

入所利用者さんをはじめ、外来、通所、ショートステイ等で恵の聖母の家を利用して下さる方々と共に、取り巻く社会状況や環境がどんなに変わって行くことも、一番身近で父、母となり支えるスタッフが其々の知識、力が発揮できるハード、ソフト面で職場環境づくりも強化し、利用者さん、支援者が一体となり、心を受け入れて愛の文字が完成する様に互いの愛を家風とする恵の聖母の家の家族として三十一年目を共に歩んで行きましょう。

生活福祉課

思いあたらに

課長 高橋 文子

散る花を惜しむ心の今日この頃ですが、野山、道端等あらゆる箇所から新芽が芽生え、自然の生命力を感じ、自身も新年度への思いを新たにする時期を迎えました。

さて、生活福祉課は新年度を迎え、今年度の施設目標である「一体感」を念頭に利用者の方々の身体・精神ケアに全力であたりたいと思っております。

【二〇一四年度 生活福祉課目標】
一般病棟（のぞみの丘・あゆみの広場）

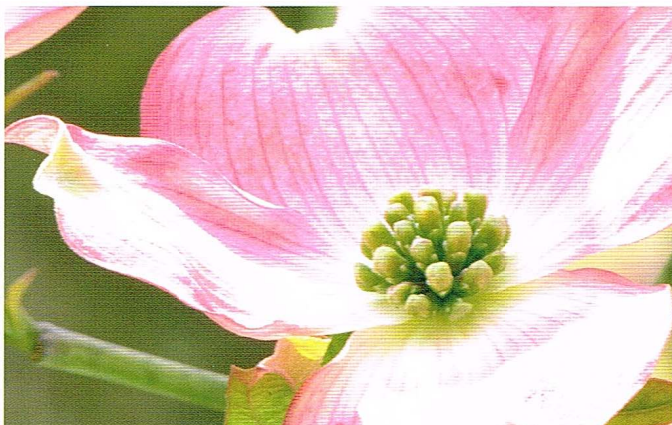
健康管理のもと、生活環境を整えリズムある生活が送れるように支援します。

特殊疾患病棟（ひかりの大地）

個人を尊重し、利用者一人ひとりに合った療育活動、生活支援を充実させます。

障害者自立支援法から障害者総合福祉法へ移行して早一年が過ぎました。あっといふ間の一年だった気がします。障害者総合福祉法は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律です。当施設も利用される方々や入所利用者の方々の支援内容を立案しサービスの充実を図るために切磋琢磨しています。常に前進あるのみの意気込みで今年度も行っていく覚悟でいます。

今後も皆様の温かい見守りとご協力をお願い致します。





事務

何の話？

事務長 松浦 紳一郎

ひと昔前、「千の風になって」のメロディーで「社保庁の事務所の前で泣かないで下さい。そこにデータはありません。お金なんかありません。」と替え歌がありました。あの頃の社保庁は本当に酷かった。

あれから、約十三年。日本年金機構がまだ社会保険庁と呼ばれていた頃と比べると、今は本当に親切で天と地の差です。「ねんきん定期便」にしても、問い合わせれば親切丁寧に応じてくれます。ただ、如せん仕組みが難しく理解しづらい。どの受給方法を選べば有利なのか、六十歳から六十五歳の年金受給開始に絡んだ定年延長の改正高齢者雇用安定法も国の言うほど働く収支を比べると現実はその間に甘くないようだし。

最近では、七十五歳からの受給開始も取り沙汰されるようになり、定年延長の取り組みも同じ流れに行かざるえない状態が予想される。

年金制度自体が「現役世代の保険料で、今の高齢者の年金支払に充当する」賦課方式と「不幸にして早く死んでしまう人が、長生きしていく人を全体として支える仕組み」の二つの仕組みの自転車操業にかわりなく、このままでは加速される少子高齢化を考えると、行く先は「年金事務所の前で泣かないで下さい。そこにお金はありません。お金なんかありません。」

そんな事は、ありえないと思っがっ？



看護課

しりかわり

看護師 若杉 智子

恵の聖母の家には昭和六十一年に入りました。開設して三年目になります。当時、二病棟ができて、町報で職員募集をみてその年の六月に入りました。その頃は今と違って、ナースキャップを着けていました。園長である緒方先生が就職した職員の顔写真を撮ってくれたのを覚えています。

看護業務ですが、朝はナースステーションで入所者一人ひとりのカードックスをみて「○○さんはこのように過ごしました」といった申し送りが始まり、夕方は十六時に日勤者で、朝は夜勤者が六時に衣類交換を行いました。入浴の後にはおやつもあり、時間が多くあったように感じます。就職時は手探りな面もあり、先に入った職員の動きを見ながら行っていました。医師は中島先生や平岡先生がおられました。気管切開や経管栄養等の方もいなくて、入所者も若かったですね。訓練は訓練課の職員にも相談しながら病棟で簡単訓練を行ったりしていました。皆、とても元気でした。療育活動でも、ワゴンに乗ってルルドの丘に上がったたり、ゲームをしたりして、本当に家族的で楽しかったですね。

今は業務手順もぴしっとしていて、それに従って行えばよく、新職員が入ってもわかりやすい形になっています。部屋ごとに職員がつき、入所者一人ひとりの状態を観察する形から、情報を共有しながら病棟全体を皆でみていく形になりました。



た。全体的に情報を共有しながら進めていくことが大事になっています。生活面では十八時までの勤務者を確認しながら、夕食時間を下げて、利用者の生活のリズムを支援しています。食事も他の部署からの協力があり、とても助かっています。

ひかりの大地の業務の中で私自身は、「利用者の安全に気をつけていきたい」と考えています。日常に行う移乗等、ポイントを押さえながら丁寧に大事に行っていきたいと思えます。現施設長も常々口にしていることですが、「家庭的な感じ」になっていくように看護していければと思います。



● 節分 2014年2月

2日は「泣いた赤鬼」のパネルシアターを行い、3日は病棟ごとに療育を行いました。桃太郎双六を行ったりしています。登場した鬼にかごを背負ってもらって各部屋に分かれて玉入れ合戦を行った病棟では、入所者の方が鬼の登場に驚きや笑顔をみせて、楽しげな様子が見られました。

● 大分重症心身障がい児者施設連絡会研究発表会 2014年2月9日

大分大学医学部附属病院の臨床大講義室を会場として研究発表会が行われました。発表会では、当施設からも日頃の取り組みから2つを演題として発表しました。会場からはたくさんのご質問、ご助言をいただくことができました。ありがとうございました。



● ひな祭り 2014年3月3日

病棟ホールで「ひな祭りのいわれ」を説明して、クイズ等で全体療育を行いました。クイズ形式にすることで、楽しい雰囲気でのひな祭りに触れることができました。4日は午後、各病棟ごとにお祝いを行います。ひなあられや綿菓子、ジュースをいただいで、ひな祭りをお祝いしたり、また別な病棟では支援者がお内裏さま、おひなさまになって入所者と写真を撮ったり、手作りのペットボトルひな人形を用いて輪投げを行ったり…。各自が楽しめるように工夫し、入所者も皆起きて、全員参加でお祝いすることができました。

● 第37回九州地区重症心身障害研究会 2014年3月8日(土) ビーコンプラザ



開催が大分になったため、大会の運営の役割を担うとともに、当施設から発表もしました。医療や福祉等の専門職以外の職種による日頃の丁寧な取り組みについての発表も勉強になったとの感想が参加した職員から聞かれました。

● 2014年4月20日(日) 復活祭ごミサ

地域交流ホームで、恵の聖母の家、潔き聖母の家の皆さんとともに、主の復活を祝いました。ごミサの中で神父様は、「カトリックでは、クリスマスよりも復活祭が大事な行事になっていること」「悪を排除するのではなく、自分をキリストのように与える、捧げることが良いつながりを作っていく」と、現代社会とイエスさまの復活の関係についてお話していただきました。



2014年度 施設行事予定

| 月 | 日 | 内 容 |
|-------|------|---------------------------|
| 4 | 3 木 | 施設外療育 吉四六ランド |
| | 10 木 | 施設外療育 道の駅きよかわ |
| | 20 日 | 復活祭ごミサ |
| 5 | 8 木 | 施設外療育 白杵石仏 |
| | 18 日 | 野津ルルド祭 |
| | 22 木 | 施設外療育 白杵石仏 |
| | 29 木 | 施設外療育 うみたまご |
| | 15 日 | 創立 30 周年記念講演会 |
| 6 | 21 土 | ふれあい運動会 |
| | 26 木 | 施設外療育 道の駅みえ |
| | 10 木 | 施設外療育 明野アクロス |
| | 15 金 | 聖母被昇天祭・故利用者追悼ミサ |
| 7 | 24 木 | 施設外療育 白杵マルショク |
| | 26 土 | 夏のボランティア講演 他、七夕/夏の集い |
| 9 | 13 土 | 家族の日・ファミリーフェスティバル |
| | 18 木 | 施設外療育 パークプレイス大分 |
| 10 | 2 木 | 施設外療育 白杵しまむら |
| | 7 火 | 施設外療育 園内レクリエーション |
| | 9 木 | 施設外療育 パークプレイス大分 |
| 11 | 23 木 | 施設外療育 白杵マルショク |
| | 9 日 | ボランティア公演 (檜の実少年少女合唱団) |
| 12 | 13 土 | クリスマスの集い |
| | 18 木 | 餅つき 他、サンタプレゼント/クリスマスミサ |
| 2015年 | | |
| 1 | 1 | お正月行事 |
| 2 | | 節分 |
| 3 | | ひなまつり |

※事情により変更の場合があります

● 表彰 2014年5月13日(火)

2012年10月に開かれた全国重症心身療育学会において当施設職員が発表した“消化器症状のある重症心身障害児(者)の水先注入導入による経管栄養の検討”が研究誌「重症心身障害の療育第8巻第2号」に論文として掲載されました。その業績を称えて、当施設でも表彰式を行いました。おめでとうございます！



● 2014年5月8日(木) 白杵石仏 6名

国宝にも指定されている白杵石仏にでかけました。お出掛けに緊張しやすい方も、車に乗ると穏やかな様子をみせていました。到着後は風や川の音をよく聴き、石仏の辺りでは自分から口を鳴らしたり、周囲をよくみて日光にまぶしうにしたり、それぞれに外気を楽しんでいました。散策の時は車椅子の揺れも楽しみ、ご家族が一緒された方は木陰で休んで、好きな活動をしたり、声かけによく応じたり…。ソフトクリームもおいしく食べていました。



● 2014年5月22日(木) 白杵石仏 6名

車内では入眠もみられましたが、到着後は目を覚まして笑顔を見せてくれた方、散策で風を気持ちよく感じ、川のせせらぎや花々をみて楽しまれた方等、それぞれに楽しんでいました。天気もよく、日当で過ごすとも暖まったようです。散策中は周囲をよくみて、売店ではせんべいを美味しく食べたり、車椅子につけるキーホルダーを示されると口を大きく開けて笑顔を見せてくれた参加者もいました。国宝よりもご家族の声かけの方に笑顔がたくさん見せた方もいました。



● ふるさと訪問活動

利用者をご家族のつながりが薄れつつある現状を踏まえ、利用者をご家族のふれあいの場を提供し、楽しい時間を過ごしていただくことを目的としています。第1回は2013年9月に行い、その後、2014年3月に第2回、5月に第3回を行っています。場所は中津市や豊後高田市でした。活動では、利用者の方が数年前に会うお母様に何度も話しかけたり、ご両親以外にも親戚の方と何十年ぶりの再会があったり、また別のご家庭では、横になって過ごされるお父様がこの日は起きて過ごされて、ご家族の喜びにつながる活動となりました。また、施設からご家庭にうかがうことで、支援者側も距離や時間等、面会に来られるご家族の大変さを痛感しました。

< 児童発達支援センターめぐり年間計画 >

| 月 | 内 容 | 月 | 内 容 |
|---|--|----|---------------------------------------|
| 4 | 春を感じて！散策・戸外活動(白杵石仏)・映画鑑賞・母の日準備 | 10 | 秋を感じて！散策・ハロウィンパーティ・レクダンス |
| 5 | 父の日準備・戸外活動・ゴルフ | 11 | 秋祭り(ご家族とのレク)・クリスマス準備 |
| 6 | 父の日・スポーツレク・レクダンス 30周年記念講演会(6月15日) ふれあい運動会(6月21日) | 12 | クリスマス行事・クリスマスの集い(12月13日) 餅つき・年賀状書き |
| 7 | 夏を感じて(感覚遊び) | 1 | お正月行事・成人式・スポーツレク・節分準備(お面作り等) |
| 8 | リフレッシュ活動(スノーズレン他) 映画鑑賞・人権の勉強・ボランティア公演 | 2 | 節分行事・ひな祭り準備・レクリエーション |
| 9 | スポーツレク・行事事前学習・家族の日ファミリー・フェスティバル | 3 | ひな祭り行事・レクリエーション |

※事情により変更の場合があります。

● 2014年4月3日(木) 吉四六ランド 6名



より医療ケアが必要な方も含めて、施設の近くにある吉四六ランドに桜の花を観に行きました。天気は晴れて、昨年よりも少し早い時期に来られたので、桜もきれいに咲いていました。人工呼吸器管理の方もかわりなく過ごされ、参加されたご家族の声に応じた様子で、出発時と到着後は表情がややムツとしていた方も、オリエンテーリングやレクを通して笑顔を見せてくれました。初めて施設外療育に参加された幼い入所児も春を味わえたようです。

● 4月10日(木) 道の駅きよかわ 3名

道の駅では、食べ物を購入して過ごしています。アイスクリームを舌につけると、笑顔を見せてくれた方、店内の商品や手工芸品の石鹸をよく見つめられた方もいました。散歩中も表情が良く、緊張することなく活動することができました。



● 4月24日(木) リバーパーク犬飼 6名



施設から15分ほどの隣の市にある道の駅に行ってきました。オリエンテーリングは皆さん楽しかった様子で、車いすでの移動を楽しんだり、歩ける方は車いすから降りて歩いたりしました。周囲をよく目をつけて、手にもったおもちゃを鳴らしたり、タッピングにリラックスされた方、逆に風が気持ち良過ぎて眠ってしまった方もいました。



▼各部署の声です。今年度の目標は「一体感」です。

児童発達支援センターめぐみ

新しい生活の前に

児童発達支援管理責任者 丸山 久幸

こんにちは！児童発達支援センターめぐみです！三月、四月のセンターの様子をお伝えしたいと思います。二月は支援学校の卒業式がありました。センターめぐみを利用されている方では、小学部が二名、中等部、高等部がそれぞれ一名、支援学校を卒業されました！

進学される卒業生は二足早い春休みになり、日中はセンターで宿題や散策等、活動を通して長期休暇を楽しみました！卒業式が三月上旬でしたので、他の利用者よりも二足早い春休みになりました。

二月下旬、学校が春休みに入ると、センターは生活介護の方と放課後等デイの児童さんが一緒に過ごす時間ができ、レク等を皆で行いながら過ごしました。今回、多い時は一日十三名の方の利用となつて、にぎやかになりました。

◆三月二十四日(月) お花見

桜も開花し近くの広場へ散歩に出かけ「お花見」をしました。春の陽気や心地よい風を感じ、気持ちよく散歩ができました。

◆三月二十六日(水)・三月二十七日(木)

映画鑑賞

プロジェクトを使ってアニメ映画上映会を開催しました。大画面でディズニー「ふしぎの国のアリス」を見ました。幻想的な画面やかわいいキャラクターの表情や動きを楽しんでいただきました。

◆四月七日(月) ボランティア公演

野津町在住のボランティアによる「吉四六ばなし」ペーパークラフトや紙芝居、寸劇で野津の民話「吉

四六ばなし」が披露されました。利用者の方は、着物で化粧とかつら姿の吉四六さんやお侍の姿をじつとながめ、二人の掛け合いに笑ったり(返事をする方もいて)、ボランティアの方と交流ができました。公演後は吉四六さんと触れ合いました。他に、施設周辺の散策で桜等の自然に触れながら、利用者も元気に過ごされていました。



◆四月二十四日(木) 施設外療育・臼杵石仏

ご家族の希望を中心とした戸外活動を生活介護の皆さんと行いました。天気も良く、春の風を味わいました。



二〇一四年度も始まりました。卒業後、いつもと違う生活に戸惑っていた方も、新しい仲間との出会いにドキドキワクワクしながら新学期を過ごされています。めぐみでは、今年度も四季の行事や創作活動、レクリエーションや必要なケア等を通して、有意義な時間を過ごしていただけるように計画しています。

今年度もよろしくお願ひ申し上げます。
※八頁に年間計画を記載しています☆



上：節分

下：ひな祭り



デイサービスの歩み

【出】…出来事 【施】…施設外療育 【行】…行事

- 一九九五年十月【出】 大分県委託事業開始
- 一九九六年 【出】 地域交流ホーム完成・交流ホームで活動開始・デイ通信発行開始
- 一九九七年 【施】 トキハデパート・キグレ大サーカス・海水浴(津久見市 冠海水浴場) 【行】 夏祭り参加
- 一九九八年 【施】 OBSポウル・仙水遊漁センター
- 二〇〇〇年 【行】 成人式野津中学校吹奏楽部と交流会(二〇〇七年迄)・人形劇あいあい公演
- 【出】 保護者との意見交換会・音楽療法の取り組み・開設日の変更(週四日)・ときめき作品展にてちぎり絵入選(ゴッホのひまわり)
- 【施】 梨園
- 二〇〇一年 【出】 砂絵制作開始・カラオケ(臼杵市)・わざだタウン・都松小学校と交流会(稲刈り二〇〇五年迄) 【施】 久住花園・用作公園
- 二〇〇二年 【出】 ゆずの会交流開始・B型通園事業認可
- 二〇〇三年 【施】 わさだタウンで映画鑑賞・チューリップ祭り(緒方)・うみたまご【出】 パーベキュー大会・夏祭り・クリスマス会に参加
- 二〇〇五年 【出】 バザー実施・ときめき作品展「プラ板」制作テレビ大分賞受賞 【行】 夏祭り参加
- 二〇〇六年 【出】 ときめき作品展「芸部門とときめき大賞受賞」鳥(爪楊枝制作) 【施】 …施設外療育
- 二〇〇八年 【出】 佐藤施設長就任・九州沖縄重症心身障がい児(者) 通園事業連絡会担当(別府市)
- 二〇〇九年 【出】 実習生受け入れ
- 二〇一〇年 【出】 ボッチャ教室開催
- 二〇一一年 【出】 暦制作・B型通園事業終了
- 二〇一二年 【出】 児童発達支援センター・生活介護ごだま・放課後等デイサービス開始
- 二〇一三年 【出】 児童発達支援センターめぐみに変更



訓練

ゆったりとした時間

主任 森矢 英子

私が「恵の聖母の家」を知ったのは一緒に実習した学生が持っていた求人票でした。縁あって就職した時、訓練課は作業療法士三名、助手四名合計七人でした。訓練は、入所者と潔き聖母の家から外来として約十人が対象でした。個別訓練の他にも、療育に参加したり、食事介助をしたりと訓練要素を取り入れた日常の援助をし、とにかく病棟にいる時間が多くて入所者と一言一憂していたものです。

当時、訓練課の職員と云えば「縁の下の力持ち」で、行事などの準備を手伝っていました。特に「テント張り」。これに関しては「アルバイトでもしよつか？」と思うくらい手際よく出来ていました。また、夏の海水浴の準備のハードさも今となっては良い思い出です。

最近では、外来訓練の利用者が増え、なかなか病棟に顔を出せず残念ですが、いつも「ゆったりとした時間」が流れている病棟は大好きです。

小児分野に全く興味のなかった私がここまで勤務できるとは自分でも予想しなかったことです。が、あたたかい人々やゆったりとした時間に包まれている、体力的に可能な限り働きたいと思っています。

医局

春が来た

小児科医師 長倉 智和

今日は私の趣味についてお話しします。見た目に似合わないかもしれませんが、じつは一年前からガーデニングにのめり込んでいます。以前は、花を育てたことがほとんどない「素人」でした。

今から二年前…。我が家の庭は、雑草で覆い尽くされ荒れ果てていました。それは、あたかも自分の疲れきった心を鏡に映しているかのようでした。ある日、ようやく重い腰をあげて「草むしり」をしました。しかし、一回「草むしり」をしても、一週間も経つと再び雑草が生えてきて元の状態へ。草むしりとしては、雑草がまた生えてくる、そんなイタチごっこを繰り返し、何度も心が折れそうになりました。ある時、「そうだ、草をむしった場所に花壇を作ろう。草むしりは苦痛だけど、きれいな花を育てることはきっと楽しいに違いない！」という考えが浮かんできたのが、ガーデニングを始めるきっかけとなりました。それから、休日はホームセンターに通い、ブロックやレンガを少しずつ購入。見よう見まねで花壇をレイアウトしながら、庭は少しずつその姿を変えていきました。

最初、秋にパンジー・ビオラの苗を植えました。肥料は何をあげれば？ 水はどれくらいおきに？ 日あたりは？ 基本的な知識が



全くなく、分からないことが多くて戸惑う毎日でした。やがて、寒い冬がやってきました。霜、北風にさらされ、花付きも悪くなり、株も心なしか元気がなくなり、このまま枯れてしまうのではと心配でした。しかし、そんな私の心配をよそに、春が訪れるや、花は一斉に咲き始め、日毎に株も大きくなっていきました。植物が、こんなに生命力に満ちあふれたものだとは…、この年齢になって初めて気づかされました。この時の感動が忘れられず、今ではマーガレット、ユリオプスデージー、シバザクラ等々の宿根草も育てています。



憂鬱な雨の続く梅雨、容赦のない日射しが照りつける猛暑、凍てつく冷気と強風にさらされる厳冬、これらの季節を超え、さまざまに困難に耐えながら、与えられた時間の中で最高の笑顔を見せてくれる花たちが、私は愛おしくてたまりません。きれいに咲いた花を見ると、心も癒され自然に笑みがこぼれていきます。最近では、私がガーデニングをしていると子供達も庭に出てきて、「お父さん、このお花の名前何ていうの?」と尋ねたり、花に水をあげてくれたり、突然何を思ったのか、スコップで大きな穴を掘りだしたり（オイオイ）。雑草で覆い尽くされた庭は、いつしか親子の「コミュニケーション」の空間へと姿を変えていたのでした。私の心にもたくさんのお花が咲いています。皆さんも「ガーデニング」やってみませんか？ 楽しいですよ。



保護者の皆様から

寝る前には

塩月 鶴子



園に入ったのは、お父さんが詳しいんだけど、確か、昭和63年の…。蒲江の役場の職員とな、どこかの看護婦さんと二人やな。私に「こうこう、こういうところの施設があるんやがぁ。一回、見学に行ってみようかぁ」っちゅうてな、三人が来たんよお。それから見学に来て、それから良い頃たって、この子を連れて来たんよ。ここになあ。じやけん、良い施設があったんじやなあとってなあ、その子をここに連れて来て、それから蒲江に帰って。もうう、その晩が眠られんのよなあ。私の床の隣に寝りよったからなあ。もう、涙が出て止まらんよ。はあ、今頃どげえしよるかなあ、寝たろうかなあて思うてな。ほして、それから一時たって、またここに面会に来たらなあ、わりと元気が良かったからなあ、安心したんよ。

まあ、ほんと、この施設が大分県にもあったんじやなあとってな、感心しました。まあ、そんな思い出があるんよなあ。良いところじや、ここはとってな。手を合わせて毎晩。私が休む前はこの子の写真とな、神様の写真を並べ

てな、「あー、今日もありがとうございました。どうぞどうぞ、ここの園の人にいがいが言わんように、迷惑かけんように」て思ってな、毎晩、休む前に絶対これは（手を合わせる）します。ほんと、こんなとこがあつてほんと、私はそれだけはつくづく思います。

もうほんと、私の子、後の子は手がいらんけどなあ。この子がと思うと、やけどお陰なこと。こんな良いところに入ってなあ。毎晩手を合わせます。63年だったかな。家には書いてるんよ。忘れるから。入った日を。この子は私が20歳の子です。やからもう60じゃ。こちらに入ったのは40歳くらいの頃じゃわ。（今も）太りもせん、痩せもせん、中肉中背じゃわあ。気に食わんことがあつたら先生たちをこげんするけど。

蒲江で生まれたからなあ、好きよ。魚が。もう朝から刺身が好きでな。食べさせよった。で、お腹がどうもならんで。私が刺身が好きよなあ。だから朝からでも刺身を食べる。魚の新しいのが多いからなあ。まあほんと、こんな素敵な施設が出来て、お陰なことじやと思うわあ。これだけは私は感謝しとります。こんとこなかったら、家におつたら、とてもじやない。テレビが好き、歌が好きよ。踊りとか賑やかなのが好きよ。子ども好きじゃわ。もう、耳が聞こえる目も良いのも良し悪しじゃわ。お世話になります。ほんとなあ。（2009年5月17日）



支援学校訪問教室

ゆめはかなう

臼杵支援学校 校長 工藤 雅道



貴施設でおこなわせて頂きました、本校の訪問教育の始業式の出来事です。式で入所者の方々、貴施設スタッフの方々と一緒に本校校歌と、「みんな～同じ生きているから～、一人に一つずつ、大切な～命～♪」の「まあるいいのち」を歌いました。

心に蘇るものがありました。教員になって、「ろくべえまってるよ」という作品に出会った時のことです。もう30年程昔です。作者は、児童文学者灰谷健次郎氏です。小学校の低学年の教科書に載った作品です。穴に落ちた犬のろくべえを、子どもたちは「まぬけ」とののしっているものの、続いて「がんばれ」と励ましながら必死の救出作戦を展開し、みごと救出するという物語です。穴に落ちたろくべえを救おうとしても、子どもの自分たちだけの力では無理だと思い、お母さんたちを引っぱってきます。しかし、常識的な意見を言うだけで手がつけられません。そのあと通りかかった「ひまそうな人」に頼むと、その人も「犬でよかったなあ。人間やったら、え

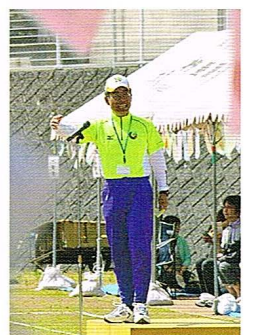
らいこっちゃ。」とあっさり見捨てて行ってしまいます。そこで、大人をあてに出来ないと分かった子どもたちは、自分たちだけで、口をきゅっとむすんで、頭が痛くなるほど考えて救出方法を考えます。そして、「みすずちゃん」とこのクッキーを、かごの中に入れて、下ろしたら……」という、子どもらしい発想で大人も及ばないような救出活動を行い、ついに成功するのです。

子どもたちにとっては、犬も自分たちの仲間なのです。犬も人間も差別なく大事な存在で、そのしくじりや悲しみも同じなのです。子どもたちの犬も人間も差別なく大事の思うやさしさ、そこからくる仲間意識を持ってねばり強く救出にとり組むけなげさ、その純粋な気持ちに感動したことを思い出しました。

灰谷氏の詩の中に、「あなたの知らないところにいるいろいろな人生がある / あなたの人生が かけがえのないように あなたの知らない人生も また かけがえがない / 人を愛するという事は 知らない人生を知ることだ」があります。障がいのある方々、その親の方々、施設の方々と多くの出会いがあり、多くのことを学びました。

また、今年も、多くの人との出会いがあり、一人一人の「ゆめ」の実現に頑張りたいと思います。

よろしくお願いいたします。



★ぴかぴかぴかぴかぴかぴか★

新しく入られたスタッフをご紹介します。①お名前 ②職種 ③お住まい ④趣味 ⑤一言



①玉井ちづるさん②看護師③臼杵市④カフェめぐり（最近はパン屋めぐりにハマっています）⑤入職して2か月。まだまだ覚えることばかりで、スタッフの皆さんに迷惑をかけています。早く仕事を覚え、利用者さんの個性に応じた看護ができるよう頑張りたいです。



①岐部なつ美（きべ なつみ）さん②作業療法士③豊後大野市④映画鑑賞やマーチングです。⑤今年4月に入職し、社会人としてもセラピストとしてもまだまだ始まったばかりなので、少しでも利用者様の生活が充実し、笑顔の増える作業療法ができるよう頑張りたいと思います。



①曾田千香子（あいた ちかこ）さん②言語聴覚士③臼杵市④お部屋を自分の好きなようにアレンジすることが好きなので、今はDIYをしています。⑤今は先生方の訓練を見て行っていますが、これからは自分らしい、自分なりに訓練（仕事）等していけるように頑張りたいです。



①庄司木綿菜（しょうじ ゆうな）さん②事務③臼杵市④読書です。ハリーポッター等、海外児童文書とか好きです。⑤耳を澄ませば聴こえてくるヒーリングCDのような自然のBGMが流れる中、日々書類と格闘しております。手は忙しく動かしているものの、心が癒される毎日です。まだまだ未熟ものですが、頑張りますのでよろしくをお願いします。



①大津留文生（おおつる ふみお）さん②運転手③臼杵市④スポーツ観戦です。⑤人を運ぶ仕事なので、体調に気をつけ、安全運転に一層気をつけます。



①中野絵美さん②調理員③臼杵市④映画鑑賞です。⑤これまでは工場の検査員をしていました。これからは、早く仕事を覚えて、間違いをしないようにしたいと思います。



①薬真寺加葉（やくしんじ かよ）さん②託児所保育士③津久見市④旅行。家庭菜園…収穫の喜びが格別です。⑤18年ぶりに託児所に戻ってきました。当時の保護者の方にも久しぶりにお会いできて、一瞬にしてフラッシュバックしました。成長した子どもたちにも会いたいと思っています。現在、利用していただいている子どもたちにも笑顔を絶やさず、「来るのが楽しい」と言ってもらえるような、そして保護者の方からも「安心して働ける」と思っていたけりような託児所でありたいな…と思っています。



①長野直美さん②看護助手③大分市④バレーボール⑤今まではOP室の中央材料室に勤務していました。わからないことばかりですが、一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願ひ致します。

お知らせ

▼患の聖母の家ではフェイスブックを開いています。ボランティアの方々による公演の様子等、動画も含めて少しずつアップしていますので、ご覧いただけるとありがたいです。※患の聖母の家のホームページにフェイスブックのバーナーを用意しています。

寄 附

二〇一三年度は次の皆さまからご寄附をいただきました。感謝申し上げます。

患の聖母の家めぐみ会さま・安達宗好さま・長谷栄さま・株式会社そうりんさま・柴田春光さま・三浦秀樹さま・臼杵市社会福祉協議会さま・甲斐治美さま・藤華医療技術専門学校さま・大分県共同募金会さま・他匿名一名

人 事

▼新規採用

二〇一四年 三月一日付

四月一日付
看護師 玉井ちづる
言語聴覚士 曾田千香子
作業療法士 岐部なつ美
託児所保育士 薬真寺加葉

四月十六日付
運転手 大津留文生

四月二十一日付
事務 庄司木綿菜
看護助手 長野直美

五月二十日付
調理員 中野絵美

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊟…個別面談
 ㊤…権利擁護・虐待防止部会 ㊦…全体朝礼 ㊧…労働安全衛生委員会
 ㊨…リスクマネジメント部会 ㊩…入浴日

| 2014年8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | |
|---------|---|---------------|----|---|------------|-----|---|-----------|-----|---|------------|
| 1 | 金 | ㊩ | 1 | 月 | ㊩ | 1 | 水 | ㊦ ㊩ | 1 | 土 | |
| 2 | 土 | | 2 | 火 | ㊦ ㊧ | 2 | 木 | しまむら | 2 | 日 | |
| 3 | 日 | | 3 | 水 | ㊦ ㊩ | 3 | 金 | ㊩ | 3 | 月 | |
| 4 | 月 | ㊩ | 4 | 木 | 行事委員会 | 4 | 土 | | 4 | 火 | ㊦ ㊧ ㊩ |
| 5 | 火 | ㊦ | 5 | 金 | ㊧ ㊩ | 5 | 日 | | 5 | 水 | ㊦ |
| 6 | 水 | ㊦ ㊩ | 6 | 土 | | 6 | 月 | ㊩ | 6 | 木 | |
| 7 | 木 | | 7 | 日 | | 7 | 火 | ㊦ ㊧ 園内レク | 7 | 金 | ㊧ ㊩ |
| 8 | 金 | ㊧ ㊩ | 8 | 月 | ㊩ | 8 | 水 | ㊩ | 8 | 土 | |
| 9 | 土 | | 9 | 火 | ㊦ | 9 | 木 | パークプレイス大分 | 9 | 日 | 檜の美少年少女合唱団 |
| 10 | 日 | | 10 | 水 | ㊩ | 10 | 金 | ㊧ ㊩ | 10 | 月 | ㊩ |
| 11 | 月 | ㊩ | 11 | 木 | | 11 | 土 | | 11 | 火 | ㊦ |
| 12 | 火 | ㊦ | 12 | 金 | ㊩ | 12 | 日 | | 12 | 水 | ㊩ |
| 13 | 水 | ㊩ | 13 | 土 | 家族の日 | 13 | 月 | | 13 | 木 | |
| 14 | 木 | | 14 | 日 | | 14 | 火 | ㊦ ㊩ | 14 | 金 | ㊩ |
| 15 | 金 | 聖母城昇天故利用者追悼会㊩ | 15 | 月 | ㊩ | 15 | 水 | | 15 | 土 | |
| 16 | 土 | | 16 | 火 | ㊦ | 16 | 木 | ㊨ | 16 | 日 | 誕生会 |
| 17 | 日 | 誕生会 | 17 | 水 | ㊩ | 17 | 金 | ㊩ | 17 | 月 | ㊩ |
| 18 | 月 | ㊩ | 18 | 木 | パークプレイス大分㊨ | 18 | 土 | | 18 | 火 | ㊦ |
| 19 | 火 | ㊦ | 19 | 金 | ㊩ | 19 | 日 | 誕生会 | 19 | 水 | ㊩ |
| 20 | 水 | ㊩ | 20 | 土 | | 20 | 月 | ㊩ | 20 | 木 | ㊩ |
| 21 | 木 | 全体研修(虐待防止)㊨ | 21 | 日 | 誕生会 | 21 | 火 | ㊦ | 21 | 金 | ㊩ |
| 22 | 金 | ㊩ | 22 | 月 | ㊩ | 22 | 水 | ㊩ | 22 | 土 | |
| 23 | 土 | | 23 | 火 | | 23 | 木 | マルショク | 23 | 日 | |
| 24 | 日 | | 24 | 水 | ㊩ | 24 | 金 | ㊩ | 24 | 月 | |
| 25 | 月 | ㊩ | 25 | 木 | | 25 | 土 | | 25 | 火 | ㊦ ㊧ ㊩ |
| 26 | 火 | ㊦ ㊧ | 26 | 金 | ㊩ | 26 | 日 | | 26 | 水 | |
| 27 | 水 | ㊩ | 27 | 土 | | 27 | 月 | ㊩ | 27 | 木 | |
| 28 | 木 | | 28 | 日 | | 28 | 火 | ㊦ ㊧ | 28 | 金 | ㊩ |
| 29 | 金 | ㊩ | 29 | 月 | ㊩ | 29 | 水 | ㊩ | 29 | 土 | |
| 30 | 土 | | 30 | 火 | ㊦ ㊧ | 30 | 木 | | 30 | 日 | |
| 31 | 日 | | | | | 31 | 金 | ㊩ | | | |

※関係者の同意のもと、写真を掲載しております。※予定変更の場合があります。

編集後記

私事ですが4月下旬に岩手県釜石市に行く機会があり、街づくりや復興について考える機会を得ました。恵の聖母の家創立30周年記念講演会は東日本大震災についてのものです。たくさんの方が来て、支援について考える良い機会になりますように。(S・M)